

令和6年度 第3回 宝塚市地域公共交通協議会 議事要録

開 催 令和7年(2025年)3月19日(水)14時00分～15時00分

形 態 対面

議 事 議案第1号(報告事項)宝塚市立病院等への移動手段確保に向けた令和6年度実証実験結果について
議案第2号(報告事項)売布・清荒神地域における令和6年度A Iオンデマンド交通実証実験結果について

議案第3号(審議事項)月見山・長寿ガ丘地区のランランバス新車両導入及び運行見直しについて

出席委員 18名(別紙参照)

■開会(会議の成立等)

○委員21名のうち18名の出席。委員の過半数の出席があったので、宝塚市地域公共交通協議会規約第8条第2項の規定に基づき会議は成立した。

○会議については、公開とする。

■議事概要

●議案第1号(報告事項)宝塚市立病院等への移動手段確保に向けた令和6年度実証実験結果について

<質疑・意見等>

会長

・今回の実証実験は二つの地域と宝塚市立病院までの路線が減便になり不便を生じたということ、それぞれ異なる方法で山本地区は定時定路線で有料にて運行、安倉地区は事前予約で対象者を限定し無料で運行したという対照的な形態で行われたものである。そのため色々な長所、短所が見えてくるのではないかと思います。

委員

・アンケートについて山本地区では利用した及び利用予定があると回答があったのは58%、今後とも続けて欲しいとの回答が79%とある。安倉地区も同じような割合となっている。

路線バスの減便がもとで利便性が低下したことでこういった新しい交通の導入の実験を行ったが、既存のタクシー事業とかバス事業への影響を考慮しながらこういった実験、本格運行の検証をされるのだと思うが、すべての事を民間企業である交通事業者が賄えるとは思っていないので役割分担という考えの中ではこういった交通モードの必要性を感じている。

ただ民間事業者の目線でいうと、利用したことがある及び利用の予定があるという回答数と今後とも継続を望むという回答との乖離の差については乗らないけど走ってほしいというのが顕著に表れており、民間事業者としてはこういった事業についてはなかなか手を付けにくいと思うので、そこは行政として検討していただくことになるのだと思うが、これから地域の方々と話していただく中でそういった事業性の観点を含めて話をされた方が良いと思う。

会長

- ・今回の実験については、事業者によって供給が可能かということを確認すること、そのうえでどれくらいの需要があるのかということ計るということであった。結果としては一定の需要があったが事業性の観点からはまだ足りないもので、今後もう少し検討、検証を重ねて次のステップへと考えていきたいが判断するまでには時間がかかるので、その間に様々な意見をいただきたいと思う。

●議案第2号（報告事項）売布・清荒神地域における令和6年度AIオンデマンド交通実証実験結果について

<質疑・意見等>

会長

- ・資料をみると登録者の年齢分布から地域の多くの方々に対して丁寧な説明がなされているようで、年配の方もかなり多いのがわかる。また、一般的にこういった乗り物は乗り合いにはなかなかかなりにくいのだが、2名以上の割合の実績もかなりでており、私の知るところでもかなりうまくいった社会実験の一つだと感じる。

AI オンデマンドは国土交通省もかなり推進しているが、その地域の特性に合っていないのに無理やり行っているところが多くある。特に関東の方がそうなのだが、そういった地域は実験を行っても撤退するといったことが多く報告されている。そういった事例の中でも社会実験としてはうまくいったケースではないかと思う。

うまく行っているが、やはりAIといったシステムを維持するのに費用が掛かるといったことがあり、それを負担できるのかというのがたいへん悩ましいところである。

委員

- ・今回、車両を小型化することで従前からバスの路線延長を望まれていた清荒神5丁目等の方が多く利用された結果が出ているのかなと感じるところと、路線バスの利用者が完全にAI オンデマンドに流れたということではなく、一定の上積みの利用があったということがそういった結果になったのではと思う。

実験を担った事業者としてはAI オンデマンドが最適解であったかどうかということは、先ほどの話にもあったがシステム料というところに大きくかかってくる。また今回は車両の規模の事もあり予約の取りにくい時間もあったので、これはAI オンデマンドがいいのか、そのまま小さい車両で定時定路線の運行の方がいいのか事業性も含めて検証していくべきと思っている。

またバス事業者の狙いとして、AI オンデマンドは運転手不足に対して車両を小型化することによって普通免許で運転できることからドライバーになれる人の相対人数が増える。これがその問題の緩和策になればと思うところもあった。次に実験をするのならば、地域も限られているので地域からこういった乗り物の運転をしてみたいといった方が出てきてもらえば、こういった事業の継続性が出てくるのではないかと思う。

会長

- ・今回は車両1台で運行したが、夕方等に予約が取れない積み残しのようなこともあったので、それを解消するため2台で運行すると費用的にも難しいといったことになる。そのため利用者の方々に満足してもらえないのも事実である。他方、新しいエリアで利用者が増えていることもあるので、エリアを限定して車両も考えながら、またドライバーも住民の方々のお力も借りるといったことも考えていけば実現にたどり着けるのかなと思うので、地域の方々と相談の上進めてさ

せていただきたいと思います。

しかし可能性のある仕組みであるが、いかんせんお金がかかる。国は実験にはお金を出す、本格運行にはさすがにお金を出してくれないのが悩ましいところである。

委員

・他の地域と比べて顕著に違うのは、皆さんアプリを使っているところである。

他の地域では予約について電話利用が9割であるといったところの中、全く逆でアプリ利用が9割というのは初めて見る。そのためポテンシャルとしてはあるといった地域だと感じる。もともとバスが走っている地域ということもあって、こういった乗り物に対してNOが無い評価なのかなとも思う。

しかしこれがビジネスとして成立するかというのは別問題で、先ほどからの話にもあるようにシステム代がかかる。オペレーターを使うとそれはそれでお金がかかる。運送事業では人件費が大きくかかる。乗り切れないから車を増やすと運転手は倍必要となるといったことになるので、非常によくできた実験ではあるがビジネスでいくとどうかというと、もうひとひねりはまだまだいるのではと思う。

国からの補助については実証実験についての運行補助というものはある。本格運行については、例えばシステム代の導入費用までは制度としてあるが、ランニングコストまでは出ない。あらゆる補助メニューは使っていただきたいと思いますし、こういったものは補助できるか？といった相談もして欲しい。

●議案第3号（審議事項）月見山・長寿ガ丘地区のランランバス新車両導入及び運行見直しについて

<質疑・意見等>

会長

・討議案について、何か質疑・意見等はないか。

委員

・新規の車両の使用は6月からか？

・ルートは現在走っているルートで、現在一部、長寿ガ丘をショートカットしていたルートが無くなり、全便を通すということでよいのか？

・6月以降、車両は2台増えるのか？

また、平日は今回の新しい車両を使い、土曜日の午前と日曜日・祝日は今までの車両を使うということでしょうか？

事務局

・いずれもそのとおりである。

委員

・手続きとしてはダイヤの変更の届け出が必要。また、停留所への変更後のダイヤの張り出しをしてください。

委員

・結果として減便となるのか？

事務局

・そのとおりである。

委員

- ・国からの補助金が出ている路線である。バスの補助金の期間は10月から翌年の9月までであり、今回6月からの変更となると期間の途中であるため事務内容変更の届け出が必要。おそらく減便のため、補助金の額は下がると思う。
- ・車両を買う手続き上でのお願いとしては、基本的に路線バスはバリアフリー対応をお願いしているところだが、地形的等の事からそういった車両を使用できない、また車両の規模からしてもそこまでの車両ではないということなら、そういったバリアフリーの適応除外の手続きが必要であるので願います。

以上

令和6年度第1回 宝塚市地域公共交通協議会 出欠表

【敬称省略】

	協議会 委員/オブザーバー	氏 名	選出区分	所属組織・役職等	出欠 (出席○、欠席×)	代理出席者	随行者
1	委員	どい けんじ 土井 健司	学識経験者	大阪大学教授	○		
2	委員	のづ としあき 野津 俊明	公共交通事業者等	阪急バス株式会社 自動車事業本部営業企画部長	○ (代理)	自動車事業本部 営業企画部計画課課長 田中 祥敬	
3	委員	おか しんじ 岡 伸治	公共交通事業者等	阪神バス株式会社 経営企画部部長	○		
4	委員	はなだ たかあき 花田 崇昭	公共交通事業者等	阪急タクシー株式会社 営業部営業企画室長	○ (代理)	営業部 営業企画室 副室長 前川 康男	荒井 俊人
5	委員	しもはら ひろし 下原 裕史	公共交通事業者等	株式会社フクユ 営業部 部長	○		
6	委員	あぜ こうじ 阿瀬 弘治	公共交通事業者等	阪急電鉄株式会社 都市交通事業本部沿線まちづくり推進部部長	○		
7	委員	もりぐり ようへい 森口 洋平	公共交通事業者等	西日本旅客鉄道株式会社 近畿統括本部・兵庫支社課長	×		
8	委員	しんやしき しょういち 新屋敷 昭一	公共交通事業者等	公益社団法人兵庫県バス協会 専務理事	×		
9	委員	まつした せいご 松下 誠吾	公共交通事業者等	一般社団法人兵庫県タクシー協会 理事	○		
10	委員	ひらお りょう 平尾 亮	労働組合	兵庫県交通運輸産業労働組合協議会 阪神地域協議会 宝塚ブロック議長	×		
11	委員	きはら けんた 木原 健太	国	神戸運輸監理部兵庫陸運部輸送部門 首席運輸企画専門官	○		
12	委員	すもと たかゆき 数元 崇之	公安委員会	兵庫県宝塚警察署交通課長	○		
13	委員	いえなが かおる 家永 薫	道路管理者	兵庫県宝塚土木事務所 所長	○ (代理)	課長補佐 三井 航	
14	委員	えざき こうじ 江崎 康治	道路管理者	宝塚市都市安全部 部長	○		
15	委員	きだ やすとし 木田 泰穂	自治体	宝塚市 技監	○		
16	委員	こいえ けんじ 古家 健志	自治体	宝塚市企画経営部 部長	○		
17	委員	うえさか かずこ 上坂 和子	市民		○		
18	委員	いのうえ きよし 井上 聖	市民		○		
19	委員	あおき はるみ 青木 晴美	市民		○		
20	委員	むらき ちあき 村木 千秋	市民		○		
21	委員	なかしま しんや 中嶋 真也	市民		○		
22	オブザーバー	にった ひろふみ 新田 博史	自治体	兵庫県交通政策課 副課長兼地域交通班長	○		

協議会委員21名			
出席委員	18名	うち代理出席	3名
欠席委員	3名		

協議会オブザーバー1名			
出席オブザーバー	1名	うち代理出席	0名
欠席オブザーバー	0名		